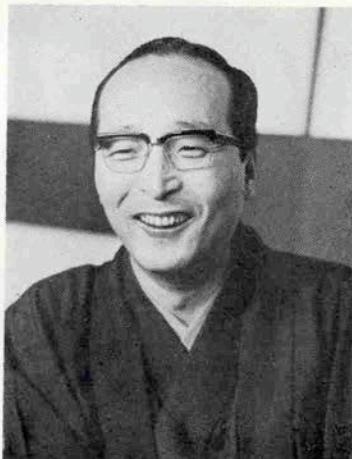


十月十日、神戸文化ホールで恒例の「神戸能」が行わ
れます。今年で四回目になります。湊川神社の能楽堂
も来年五周年を迎えますし、学生能も四年になり、幸い
県や市からのご理解もいただいて、神戸で能らしい能が
出来るようになつたのはここ四、五年のことですね。

神戸の文化に 誇りを

吉井 順一
△能楽師△

☆私の意見



明石、須磨、生田神社などには古典の名所旧蹟がありますし、一方国際都市ということで神戸には近代的な文化の移入もあります。その両者がかみ合つて他にはないエネルギーッシュな文化が創り出されたと思います。能もそういう文化全体のなかの古典としてとらえないといけませんね。古典をやる人間は古典的なものをつかむ人間であり近代的なものもマスターする人間でないと古典の進展はないですね。能だからといって古典の枠に縛られるのじやなくともっと視野を広げることが大切です。

「神戸能」は一般の方々に能というものを知つて貰うための呼びかけとしてやっています。また、学生能は中学生ぐらいから古典を理解して貰い、底辺を広げようとしてやっています。古典は一年や二年で修得出来ません。十年、二十年のつみ重ねがあつてはじめて盛り上つたものになるのです。その意味でも若いうちから古典を勉強することは大切なことです。

能というものをこれからもPRして行かなければならぬと思いますが、一方、能を演じる者の舞台での芸の人間性を深め、もつと成長しなければいけませんね。

神戸でなければ、創れない文化があると思います。古典の生きる土壤と近代的な文化とがうまくミックスしている神戸は文化の土壤として誇れると思います。明るくのびのびとした文化を創り出せる「神戸人」であること若い人たちも誇りをもつて欲しいですね。

自分自身だけではなく、芸を大切にし、他人を大切にし、町を大切にすること。目の利害だけにとらわれることなく、お互いに文化をよくする気構えをもたないと文化は盛り上らないですね。

(談)

刀劍 古美術 書画 骨董



鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい
神戸市生田区元町通6丁目25番地
刀古美術董 元町美術
元町美術
TEL078-351-0081
円650

スイートなチョコレートを
コーティングした
ロマンチックな
パピヨットです。



チョコレートパピヨット



神戸風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎ (078) 391-2412

隨想



レオナルド・ダ・ビンチ号

台湾、夏の旅

—兵庫県生物学会
創立30周年記念研修旅行—

当津 隆

（夢野台高校教諭・県生物学会理事長）

バシー海峡に面したガランビ岬にある懇丁熱帯植物園と二四〇八の阿里山を主とした植物、昆虫などの研究調査を試みた。総勢六十一名、一週間の旅であった。ボルトガルの航海者が、イリヤ、フオルモサと呼んだように麗しの美しい緑の島であった。山野には、リュウガンやレイシがたわわにみのり、バナナ、パパイヤ、マンゴー、パンノキなどが自生している。さまた、食糧問題を心配する国か



樹々が美しい台湾で。右当津氏

阿里山は「高山青」の歌で知られた多彩な麗しい山だった。世界でも珍しい山岳鉄道が山肌をぐるぐるまわりながら、素堀りのトンネルを抜け、スイッチバック式で

たりまで梢がのびあって、みどりのトンネルをつくっているマクマオウをはじめ、どの樹々もゆつたりと大きい、レモンユーカリの並木道も印象に残る美しい景観であった、バリやロンドンの美しい街路樹とはまた違った野生的な美である。

「母忘在莒」というスローガンによくでくわした。昔、齊という国が燕という国に攻められ、七十二の城を奪われたが、齊国は残った小さな莒州の城にたてこもり、艱難辛苦に堪えて、遂に失地挽回、燕の国を滅ぼしたという歴史上の物語から、台湾は現在、莒の城にあることを忘れてはならないといふことらしい、また、自らを強く

らみれば、夢のようなことであろう。タケも多い。とくに麻竹のタケノコの出荷量はすごい。日本で食べる中華料理のタケノコの殆どは、この麻竹であるという。台湾のタケは生活のすみずみまでいきわたって、竹文化をつくりあげているようだ。建築現場の足場も、タケを組んだもの。編笠もタケの葉である。街路樹の雄大さはまたみごとである。広い道路の真中あたりまで梢がのびあって、みどりのトンネルをつくっているマクマオウをはじめ、どの樹々もゆつたりと大きい、レモンユーカリの並木道も印象に残る美しい景観であった、バリやロンドンの美しい街路樹とはまた違った野生的な美である。

話をかえよう。

いま、台湾は準戦時体制とのことで、旅人にとっては、戦う台湾の様相にふれることは少ないが、台北の空港で、植物採集用の日本の古新聞を全部没収されてしまつたり、行軍する兵隊さんにあつたり、國威高揚べつたりのテレビの最終の時間帯にびっくりしたりしていると、日の丸や地球を写し出すNHKのフィナーレに見馴れているわれわれには、異様な興奮を覚えるのであつた。

燕の国を滅ぼしたという歴史上の物語から、台湾は現在、莒の城にあることを忘れてはならないといふことらしい、また、自らを強く

することが、他からの尊敬をうることだという意味の「自強敬粧」というスローガンも旅のおもいで一つである。

夢の船旅 ダ・ビンチ号

本多 孝子

ハシェ・クレープオーナー

七月十一日、ジエノアで憧れのイタリア船レオナルド・ダ・ビンチの前に立つ。四万トン近い堂々たる巨体とスマートな白い船姿はイタリア船ラファエロ・ミケランジェロが既に病院船と化してしまった今、残るイタリア豪華客船として私が念願し続けたものであつた。

乗船の列に加わると、誰もが期待と嬉しさに顔を染め、知らない同士が顔を見合せて笑顔する。千何百名の乗客は見る間に呑み込まれ、船内で暖かい笑顔のクルー達に迎えられた。

我々グループは男性三名を含む十二名で、いずれもこれらの豪華船のこの上もないぜいたくな楽しさと限りない怠惰に浸ることによりつかれた船キチばかりである。私の部屋は小じんまりとしたシングルルーム。キャビンスチュワードが挨拶に来て、英語の話せるチーフとは日本からの小さなおみや



ダ・ビンチ号でのディナー。中央本多さん。

げのおかげですぐに仲良しになつた。今夜はインフォーマルで盛装しなくてもよいとのことだが、イギリス船に慣れたものにとってはちょっと意外。それでも鼻唄まじりに食事を運んで来る愉快なウエイターと、さすが食好きなイタリアと思わせる豪華な食事を楽しんだ。

翌朝、朝食後船内を散歩。船内にはブールが四つ、バーが三つ、若者のためのダンスホール、ナイトクラブなどがあり、またデッキでは種々のスポーツができる。午後、映画館でイタリア語の「四銃士」を見ていたら、いつの間にか眠つてしまつたらしい。いびきがうるさいと友達に注意され失敗、失利。その夜は船長招待のカクテルパーティ。昼の失敗を挽回せんと日本女性一同着物で盛装。ホーリの入口で一人ずつ名前を呼ばれこれもきらびやかな正装の船長を迎えた。

と日本女性一同着物で盛装。ホーリの入口で一人ずつ名前を呼ばれこれもきらびやかな正装の船長を迎えた。

イギリス船と比べると、イタリア船の特色はこの人なつこさと食事の量。三度の食事以外に夜の十二時にビュッフェスタイルの夜食が出、深夜の二時にピザバイのサービスがある。残念ながらピザは食べられなかつたが、二日置き位にパレモ、マデラ、ラスピタルマス、カサブランカと観光する間に、おみやげをどつさり買ひ込んだ。寄港地のすばらしかつたことや船内でのアバンチュールなど語り尽くせないが、我家のように思えるダ・ビンチ号をふり返り振り

はじめスマートな着こなしのオフ会場に入る。和装が珍らしいようでエレガントだととても好評だった。このパーティ後、イヴニングドレスに着換えS夫人とホールに行き、楽しそうに踊っている人たちを眺めていたら二人の男性が私たちにダンスを申し込んで来た。こんな場合も、イギリス船の乗客はいつもおしゃれをして気取り、ダンスも上手で袖口からレースのハンカチを取り出したりで肩を張つた感じだが、イタリア船はお国柄か家族的で人々はく誰もがすぐ話しかけて来る。ところがイタリア語の話せない我々は、グラチエしかいえないので、ごめんなさいとばかりすぐ逃げざるを得ない。

ア船の特色はこの人なつこさと食事の量。三度の食事以外に夜の十二時にビュッフェスタイルの夜食が出、深夜の二時にピザバイのサービスがある。残念ながらピザは食べられなかつたが、二日置き位にパレモ、マデラ、ラスピタルマス、カサブランカと観光する間に、おみやげをどつさり買ひ込んだ。寄港地のすばらしかつたことや船内でのアバンチュールなど語り尽くせないが、我家のように思えるダ・ビンチ号をふり返り振り

返り私はクレープ菓子の勉強にパリに向かった。

生活の中の西洋古物

鉢木伸一郎

（北野町グノアグアンティーカ主人）



レイセスタースクエアでの筆者

過熱氣味のアンティークブームは日本ばかりでなく、ここ英國においても骨董屋の数は年々増すばかりで、半年に一度の英國訪問の際には必ず一ヵ所や二ヵ所の新しいアンティークマーケットのオーブンの案内に気つく。マーケットといつても、通常は四、五十軒の店舗（ストールと呼ばれる）が、一軒につきたみ半疊から二疊くらいの面積を占めながら、古い大きな建物の中あるいは広場などに軒を連ねているのである。

女王陛下の國、英國は近年とみに世界のアンティークハンター的になつてきており、マーケットに行くと、小規模な国連が引っ越してきたかと思われる程、いろんな人種で賑わいを見せている。ア

フリカの奥地から持つて来たものであろうか、時代物の硬木の彫刻を両脇にかかえて売り歩いている黒人がいたり、自分の家で不用になった鉄のベッドのフレームを自家用車の屋根に乗せて売っているロンドンっ子がいたりする光景は飽きることがない。

イギリスで、ハンガリーからの移民の若い骨董屋さんに招待を受けた。彼、ペトロコフスキイさんは、古時計が専門で、スイス物のオルゴール入や、トゥルビヨンの懐中時計を持っていた。私も彼のコレクションの中から十九世紀末のデジタルの懐中時計などをいくつか分けてもらったことがある。

彼の住居は、ロンドンのキングスロード（彼の店もこの道に面している）の一ブロック裏側のレンガ造りのマンション（七、八〇年前に建てられたもので、この時代の建物が林立している）で、共同の廊下に入ると壁には白熱電球のラケットが灯つており、蛍光灯のあの眼を射るような光ではなく、眼に心地よい明るさを投げかけてくる。各部屋はほとんど電球で明りをとっている。彼の部屋に入る、年代は判らないが、相当時代を経たマホガニー製の少し猫足の机が置いてあり、デコラ製の机はつく筈もない引っ掛けキズや凹みが、何代も人が使った歴史を

物語っている。部屋の隅には、五〇年も昔のニクロム線式の電気ストップが冬が来るのを待っている。また入口に近い所には一〇〇年近くもセコンドを刻んできた十八世紀のグランドファーザークロックがこちらを見下している。電気時計の追っかけられるような時刻みとは全く異なり、ゆったりとした振り子の往復は時を忘れさせる。夕食には普段と変わらない料理で気易く接待してくれた。ふと見ると、ナイフとフォークには十九世紀中頃のバーミンガムシルバーのホールマークが読みとれた。ビールを注いでくれた宙吹きのゴブレットは、十九世紀のアイリッシュガラスのようで、空のうちにつめではじいて硬い金属音を楽しんだ。何気ない生活の中にこれだけの時代物が入り込んでいるのはまことに羨ましい限りである。

英国人の生活が全てこのようだとは決して思わないが、物を大切にしようとする異常とも思える心が、古い物に対する慈しみとして溶出するのだろう。このようにして日常生活の中に古い物を持ち込むうとする下地が昔から培われてゐる英國人にとってアンティークとは生活そのものに他ならないのだと今さらながら気付いたもので

□ある集いその足あと

さんちかタウン もぐら会

大内 信行

△マルダイ社長・もぐら前会会長▽



歓談するメンバーたち（ブランドウプランにて）

さんちかタウンの若い推進力と
して発足したもぐら会は今年で十
一年目を迎え、着実な発展を続け
ている。

当初、十六名のメンバーでもつ
て“研究と親善”を目標にスター
トし、そして現在もその精神を損
うことなく、若い人たちの自己研
鑽の場として歩みつづけている。

月一回開催される例会では、神

筑家など、ユニークな先生方を招
いて、一般教養的な知識——商売
に関するものだけでなく、実際の
社会の動きといったことに関する
知識をもっとふやしていくことに
留意し、自己を磨いていくこうとい
う姿勢をもつてることが、長続
きしている原因のようである。

メンバーも、センター街、元町
だけでなく、大阪へと抜がり、比
較的自分の行動半径以外のところ
から情報を得る機会に恵まれて
いる。一つの店のやり方、考え方
にこだわらない柔軟性、自分の属
しているところの考え方だけでな
く時代の先取りの精神を養うこと
が出来、さらに経済情勢がきびし
くなっていくと、こうして培つて
おいた知識が役に立つわけで、樂
しみの輪を外へ拡げよう”語り
合う精神を培おう”、外への積極
的な行動、チャレンジ”をモット
ーとして歩みつづけ、その毎月

の例会でのディスカッションや研
修を通じて、それぞれの意識のな
かには、石油ショックを機に、も
う一度原点に戻つてしまふと考え
てゆこうとの姿勢で、よく考えな
がら行動し、堅実な商いをする時
だという実感を得た。

雑談かもしれないが、そんなコ
ミュニケーションの場としてのも
ぐら会の存在に意味があろう。

戸市長や海の女王、大学教授、建

尾崎信義△不二屋 □ 301-2936▽

飯田 存△まさ □ 321-4545▽

芹沢貞雄△セリザワ □ 391-4626▽

川村博美△中川屋 □ 391-3744▽

白井孝之△アゼロ □ 391-0333▽

上島達司△UCCコーヒー△ヨツブ □ 391-5677▽

田村真△シンヤクドー □ 391-1778▽

大内信行△マルダイ □ 321-4093▽

福田雅樹△パッジの三和△ □ 321-4044▽

亀岡信義△カメヤ □ 391-4045▽

岸野恭久△シンワ □ 321-5254▽

衣笠悦三△コマツヤ □ 391-5217▽

橋本輝男△菊秀 □ 391-3359▽

長沢基夫△ナガサワ □ 391-4713▽

美田侑三△美田 □ 391-8798▽

西 正興△ユーハイムコンフェクト □ 391-3558▽

鳥越 哲△神戸眼鏡院 □ 391-1874▽

三井英雄△ベル □ 391-3508▽

下村光治△月堂 □ 391-3455▽

樽谷清太郎△銀水 □ 391-5663▽

山崎綱也△栄弥 □ 391-5233▽

浅岡芳司△福寿し □ 391-5473▽

牧野 宏△灘 □ 391-5559▽

△OB会員▽
東中弘吉△ベル □ 391-3508▽

森本泰好△神戸地下街 □ 391-4024▽

久松正良△シンヤクドー □ 391-1778▽

一粒一粒を いとおしむように。 セピアの宝石。

やさしい甘さ——。一粒一粒ていねいにつくりあげたホームメイドチョコレートの逸品ばかりを詰めあわせました。モロゾフが伝統の技術を惜しみなくそぞいでつくるチョコレートの宝石。どうぞ、エレガントにエレガントにお贈りください。



¥4000・¥3000・¥2000・¥1500



きものと細貨

あんがら屋

神戸 本部・仕入部	神戸市東灘区青木五丁目一五／一九	電話〇七八一四五二一五二九〇	(代)
さんちか店	市街地改造により工事中		
東京 銀座コア店	昭和五十二年未完成予定		
渋谷東急店	東京都中央区銀座五丁目八一〇	電話〇三一五七三一五二九八	(代)
日本橋東急店	(四階きものコア)		
池袋パルコ店	東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一	電話〇三一四七七三四四〇九	(直)
	(五階和装名家街)		
	(四階和装名家街)		
	(四階きもの小路)		
	東京都中央区日本橋通一丁目九一	電話〇三一二一一〇五一	(代)
		〇三一九八七一〇五六一	(直)

馬渢治

吉 村 一 夫 △音楽評論家△

昭和一ヶタの頃、京大音楽部室で、小男ながら目付の鋭い先輩が、新入部員を前にして訓示である。「お前らええ年して未だ童貞やというほどのアホは一人もおらんと思うが、昔からいうやろ△キを見てせざるは勇なきなり△……」童貞君らは小さくなっていたが、それよりも昔の諺がこれほど切実だとは思わなかつた。あとでよく考えて見ると「義を見て」を「機を見て」にすり変えた才覚は凡庸ではない。濁点一つ取ることで古い諺がかくも生きてくるのである。

その怖るべき先輩が馬渢治である。三〇才で工学博士、三十三才で理学博士の学位を取つた鬼才である。京都二中の時吹奏楽をやつたので、管楽器はなんでもやる。ヴァイオリンも首席奏者の腕前である。手八丁口八手、無敵である。彼が戦中川西機械製作所の技師長として電波兵器に取組んでいた。その頃銀行にいた私は、戦時の波で、銀行ごときは女子と老人で充分である、若い男は兵隊になるか軍需工場で働け、徵用するぞ、と脅かされていた。「徵用されにうちに来いよ」の言葉で川西に変わり、まんまと現員徵用となり、まるで徵用されに行ったようなものである。終戦まで

兵庫にある川西機械で爆撃の中を何度か西宮から兵庫まで徒步で往復したものである。太平洋戦争とともに、防空訓練でバケツリレーをやつてゐる時代に、彼はせせら笑つて「爆撃された阪神間はたちまち焼野原や、あんな訓練なんにもならへん」と高言してはばかりなかつた。「それみい、わしのいう通りやろう」と焼野原を前に大得意の彼であった。戦争も末期になつて、本土決戦を叫ぶ頃だった。「お前、大学は経済学やろ。そんなら聞くけどなー、俺らが造つた兵器を潜水艦や爆撃で海や山に捨ててきよるやろ。すると輪転機を廻してペーパー・マネーを刷つて、その紙片と引換えに製品を作らせて、またつぶしたり捨てて逃げてきよる。また紙の札を刷りよる。すると日本の経済ちゅうもんはどないなんねん」とこうである。大体日本の学問はもつとむずかしい言葉でやるものである。子供のように無邪気に聞かれると答えようのないものである。「もっとむずかしい言葉で聞いてくれると、むずかしい言葉で答えられるんやけどなー」と音を上げると「なんでもそうや。電気のことでも誰れでも判るようにいえる人はよっぽどエライ人やからなー」と彼に教わ



後列の右端、ティンパニーの前でホルンを吹いているのが馬剣治。ヴィオラに朝比奈隆、チェロに中村隆、第一ヴァイオリンに筆者の顔がみえる。会場は、今はいい旧岡崎公会堂で、ダルマストーブがみえるのも時代を感じさせる。

たことがある。「アメリカは日本のどこへ上陸してきよるやろか」と彼がいうので「判らんけど、日本の真中やから名古屋あたりとちがうか」と答えると、「そんなら岐阜に分工場があるから、お前の部屋も取つ」といたるからアメリカが来たら家族連れて岐阜に来いや。夜の間に紛れてアメリカ側に逃げ込んで、少しは英語もしやべれませ、いうたら白いパンぐらい喰わしてくれよるわい。日本側にいると竹槍もたされて、へっぴり腰で行つたら向うも怖いから撃ちよるわ。日本側についたら命あらへんで」とこうである。強制された爱国心の空しさをこの時はど感じたことはなかった。戦後の空白時代、彼は五ヶ国語にのぼる外国語の読み書きができるので、ロシア人からドイツ、

フランスに至る外人の友達から物資を流して貰つて悠々としていたが、日本語は「そうけー、ほんまけー」程度の京都弁一本槍である。川西から松下に変わって、頭脳移民第一号として渡米、たちまちロックフェラー研究員の資格を取り、ナショナルとフィリップスを結びつけ、ニューヨークでドクター・マブチは、といえば、尊敬的的であった。△忠臣二君に仕えずの反対で△よき鳥は樹を選ぶの諺に即して、ニューヨークで彼は、ソニーに転身してアメリカのソニーを牛耳つて多忙な彼である。一度ニューヨークに彼を訪ねたが、郊外に立派な家を持つて上流の暮し向きである。奥さんに「きつねうどん」をご馳走になつたことが最も印象に残っている。アメリカ人を叱りとばして働いている彼を見て、内心舌を卷いたものである。日本人とはなんとエライ奴だらうと感心させられた。

朝比奈隆をはじめ、われらの仲間は、面と向つては対等に振まつてゐるが、蔭では「マブやんには勝てんna」と嘆くのである。あの強気一点張の朝比奈ですら「せめてあいつの十分の一でもできたらな」と弱氣をはくのだから驚きである。無数の特許を取り、頭脳だけで地球上どこでも一流の人間として通用する彼に対しても劣等感を持つのは当然だが、会えば対等に、背伸びを感じさせないように振舞うのも一苦労である。彼の令兄も医学博士の大学教授であつたことを思うと、彼の頭は血統であつて、彼自身の手柄でないと思つたのだが、鋭い目付の小柄の彼を前にするとそんな考えはたちまちふつ飛んでしまうのは情けないことである。

□れんさいいそう

甲南の変り種

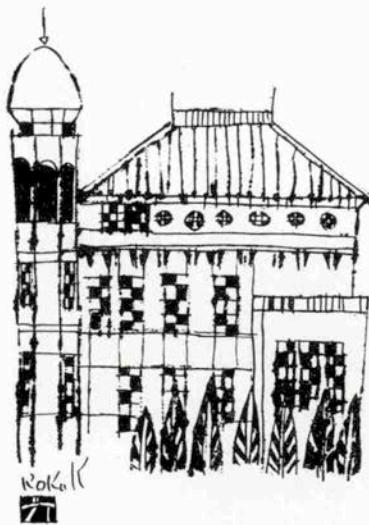
甲南学園と神戸 △2▽

和田 邦平 △甲南大学教授▽

え・貝原 六一

甲南では、点数のために生徒を競争させなかつた。席次はもちろんつけない。人を押し分けて自分でだけ進むというような考え方を避けていたので、生徒は自分のベストを尽せばよかつた。学内試験は、監督が無くてもカンニングではなく、出席簿もなかったが、生徒の行動はすべて先生たちには分かっていたらしい。平生先生の理想とする相互信頼のもとに、先生がたは教育に野心的で、生徒は十分に個性を伸ばした。

甲南中学校（旧制）の第一回入学生のうち、声が大きかったので級長に選ばれた長谷川三郎氏は幼少年期を異人館の多い北野町の、純白なベンキのエキゾチックな洋館に住む神戸っ子であった。スポーツを好み、野球も上手であったが、諏訪山の武徳殿に弓道の稽古に通つた。のちに禅に関心



初期の甲南生にとつて思い出多い二楽荘

を通じて学校の成績もよかつた。クラブ活動は芸術部に属した。高等科進学の年（大正十二年）に油彩を始めるとともに白象会をつくつて「大根」「静物（オレンジ）」（甲南学園蔵）など、毎月作品を持ち寄り、批評会を行なう。高二の時、芦屋で近所の小出橋重に師事した。この年「居留地風

景」が大阪市美術協会第一回展(公募)に入選している。昭和三十二年、五十一歳にしてアメリカで客死するまで、長谷川三郎氏は油彩・木版画・拓本・水墨画など三〇〇余点にものぼる作品をつくりた。このうち主要なものは甲南学園に寄贈された。一方、和・英文の著作・評論(二〇〇余編)を公刊している。後年、京都の「転石会」グループの月例会で、三郎氏に初めて会った須田剋太氏(国画会員)は、三郎氏の「禅と抽象における態度」に非常な感銘をうけたと言っている。特異な国際交流の推進者として見直されるひとりであろう。

戦争がすむと、プリンストンが第一に呼んだのが湯川秀樹博士で、その次がカクさんこと角谷静夫博士(現エール大学教授・旧制文六回卒)であった。彼は学校の近くの寄宿舎「甲南寮」から通学したが、弁護士のあとを継がせようとした父の反対のため理科へ進むことができなかつた。のちに東北帝大の数学(理学部)へ進学、いま世界的大学者となつた。甲南の個性尊重の教育を地でいたひとりといえよう。角谷氏は、甲南の校技ともいふべきラグビー部員であつた。ラグビー練習中の短い休憩時間に友だちが「おいカクさん、こをちょっととやつてくれ」と英語の下読みを頼む。彼はそのためによそのクラスのテキストも揃えて持っていたという。寄宿舎では平素は消灯時間を守り、とくに勉強している風もなかつたらしいが彼は文科でありながら数学が得意で、授業休み時間に図書室でよく数学の専門書を開いていたのである。毎日のラグビーの練習をやりながら、文科生で数学の勉強を続けるとは何かりゴリズムの精神みたいなものを堅持していたのだろうと友人た

ちはいまも讃辞を惜しまない。

いまの流行のポケットカメラのはしり、甲南六ミリの発明者西村雅貫氏(旧制文一四回卒)は生粧の神戸っ子である。父は海岸通りの文化人旅館主として著名な貫一氏で、ある日、子息の成績が悪いとクラス担任に注意され「甲南は個性尊重で、好きなことを伸ばす教育をしてくれると聞いて、息子をお世話になってるので……」と成績が悪いのは先生のせいとばかり逆に教師を困らせたエピソードが今も語り草になっている。ある時雅貫氏は、甲南高校の写真部の撮影会で神戸の波止場にいる西洋婦人のスナップを無断で撮つた。どう怒られた。これが動機になつて、人に気付かれずに写せるカメラをつくつてやろうと発心した。タバコのケースほどのカメラを発明した彼は大きな掌に隠し持って、電車の中で向いに坐つている女学生の膝のあたりをパチリとやっては友人に見せびらかしたものである。またある時、リング箱を暗箱にしてピンホールカメラを作つた。大阪駅で長時間露出の撮影をしたところ、現像してみると一人だけ写つた人物がいる。地面に坐り込んだ物乞いであった。こうして西村雅貫氏の存在が注目を集め、甲南を卒業して京大在学中、戦時下の陸軍中野学校の教官として引っぱられ、スペイ撮影の指導をやらされるはめになつた。戦後、昭和二十二年西宮に甲南カメラ研究所を創設し、ミカ・オートマット(小型カメラ)の発明をはじめ、宇宙線観測カメラなど、数々の国際的業績をあげて32年に第一回兵庫県科学賞を受賞、将来を嘱望されながら三十八年(四五歳)で急逝した。惜しまれる甲南の変り種である。

圓生語り

東西落語名人選のタベ（神戸文化ホール）に出演した

三遊亭圓生師匠を訪ねて

バ力に美人に見えたりネ。



バカに美人に見えたり、また不美人に見えるような芸がいいんで……。

★圓生師匠は神戸の街、初めてですか？

圓生 戦後、パレスという名前で、兵庫駅の近くのガードの下に席があつたんですよ。そこはね、上に列車が通るとガタガタガタガタ……って、その間喋つても全然聞こえない（笑）。しようがないから列車が通過するまで

黙っていて、通つちやつてから喋りだす。変なところでした。それでも当時は一回の興行が十日間ぐらゐはありましたね。しばらくやつてたので、私も二、三度神戸に来たことがあります。神戸には昔から落語のファンがずいぶんいらしたし、席がないつてことはまことに残念なことでしたね。今のように大きなホールを貸りてやれる

といつても、せいぜい一日か二日にすぎず、長期の興行ができない。それに長期の興行をやるんでしたら、やはりあまり大きくなりところで、続けられるところですね。ところが場所のいいところでそんなふうにやれるつていふと容れ物に莫大なお金がかかつちやいますよね。だからといって昔のように細い路地の奥で小さい寄席を、なんていうわけにもいきませんよね。そんなことするとソロバンに合わない。だけど神戸も大きな街なんだから、席さえあればお客さんもだんだん増えていくんでしょうね。

★サンパウロで一席。涙流して笑った日系人。

圓生 こないだ、六月二十日から七月五日まで、ニューヨーク、サンパウロ、リオデジャヤイネロ、パリと行ったんです。コンゴルドに乗りましたよ。あの飛行機、揺れるとかなんとか初めはあまり評判がよくなかったんだそうですが、揺れも何にもなかつたみたい。ただ機内が細いですね。二人ずつ並んで座つて真中に通路がある。やはり幅が広いと風をうけて、それだけの速度が出ないんですよ。そんなんだろうと思ひます(笑)。

リオデジャヤネイロはきれいでしたね。海岸でしてね、きれいな家がずーっと並んでいるんですよ。海岸にいるのはみんな金持ばかりで、実にきれい。あそこへ別荘を持つつてのが夢なんですってね。ところが、日本では山手のほうに住んでるのが比較的ハイクラスだつていうけど、あそこは山の上に住んでいる人たちはあまりよろしくない。いわば貧乏なの。海岸へ行くほど金持ちが多いみたい。非常に街はきれいにして、湖なんかもある。——お遊びで行かれたのですか。

圓生 まあ遊びですが、サンパウロで落語やりました。とっても感銘してくれましてね。あちらへは初めて落語つてものが行つたんです。たいへん喜んでくれてね。サンパウロ新聞つてのがあって、そこが主催してね、一五〇〇人収容の会場に二三〇〇人が入つた。そんなに収容

しきれない。何しろもういっぱいの人で扉は閉まらないし、入れない人たちは隣りの喫煙室に入つて、スピードカーを通して声だけ聞こえるって状態。姿は見えないで。それでもいいから入れてくれつて。「ただ笑うだけでなく、みんな涙をこぼして笑つていた。嬉しいって」と新聞がいつてた。前年に若乃花が行つてゐるんです。親方がむこうで相撲の話ををしてるんです。とにかく古い日本人が多勢いる。今は二世、三世ですが、一世となると明治時代の日本人なので、そういう日本の精神が残つてゐるんですよ。

ニューヨークでは、ミュージカルつてんですか、見ましたよ。パリではムーランルージュとそれからもうひとつ、何だか忘れましたけど、見ましたよ。大変なもんですね。大きな大きな水槽があつてね、中に女人の人が入つてゐるんです。その中に大きなイルカが五、六匹一緒に入つててね。で、女人の人が外へ出てイルカに芸をさせたり水槽の中に入つて一緒に泳いだり。そりやもう大変(笑)

★あんまりお酒が美味しいから

東京へ帰れなくなっちゃう。

圓生 お酒? エー、嫌いではありません(笑)。少しはいりますよ。いえ本当に少し(笑)。二合か三合くらいい。ウイスキーよりも日本酒のほうが美味しいですね。日本酒のほうがお料理が何でもいただけますしね。ウイスキーフてのは、お肴がありませんね。チーズとかチョコレートだと決つていますしょ。ウイスキーはね、果物で飲むのが一番美味いんですよ。今頃なら白桃なんかが最も結構ですね。白桃をカジりますでしょ、するととっても甘いんですね。そこへウイスキーをついで、生で飲むんですよ。それが一番美味しいございますね。強いお酒を生で飲みますと、我々は声をいためて、どうしてもノドをからします。そうすると声がつかれたり、いたんだりしちゃうんですよ。なにしろ火の酒ですから。でも本当はウイスキーつてものは、水割り

で飲むのは美味しくないでしょ。やつぱり生のまま、ストレートで飲んで、あとで水を飲むつてのが美味しいんですね。だからその水のかわりに果物にするんです。甘い汁が出ますでしょ、それでノドをいためるつてことがないんですね。だけどやっぱり日本酒がいいですね。昔ね、東京の囃家が大阪へ来るとね、お酒の好きな連中は東京へ帰れなくなつちやう。あんまりお酒が美味しいから。お酒に惚れ込んじやつてね。昔、大阪の天王寺の兄弟弟子のところに泊つた時、菊正宗を飲んだんですよ。その家がお茶屋をしててね、どれくらい飲むかって聞く上は「死神」を一席。



「野さらし」から一筆。

んで、寝る前に二合くらい飲むつていつたんです。すると樽酒でもつて二本飲ませてくれた。一口飲むと美味いんですね。飲んだのは良かったのですが、ひどく酔つて

んのかなと思うぐらいにフラフラするんですよ。二階に床が用意してあるつていうから、二階まで上つて行つて

そこにフトンが敷いてあるなと思つてそのまままで行ったのは知つてゐるんですけどね（笑）、気がついたら朝の七時。つまり、こくのある酒とこくのない酒どちらがうわけですね。全然利き方がちがうみたいなんですね。東京で三本飲めてもこちらへ来て二本飲んだんじや過ぎる。（笑）利きが良すぎますよ（笑）。その時なるほどなつて思いました。これじやお酒の好きな連中は東京へ帰り

たくなくなるよつて。いいお酒だなつて思いましたよ。

★芸でも何でもあんまりキッチリはいけませんね。

圓生 美人は落語にはあまり出てきませんね。出てくるのは変な女のほうが多いですよね（笑）。色氣のある女性を落語で表現するつてのは非常にむつかしいんですね。やら科をつくつてやりますと、聞いてるほうにはとてもいやらしく感じますし、といつてあんまりバサバサつてやると女にみえないし（笑）。そこにいうにいえない女のやしさとかみたいなものを出すのは、ことばだけなく身体ですね。それはやはり日本舞踊が基本ですね。どういうふうに肩を引いたらとか、落としたとか。しかも我々は上半身だけで、その上扮装もなしで表現しなくちゃなりませんしね。

女人でも始終美人だったのと、非常に美人にみえたはずなのに今度みたらひどくてね……（笑）ひどい女だなつてふうにいろいろ変わる人がいるんですね。その時その場によつて。岸田今日子さんなどはね。映画でも、角度によつてばかに美人にみえたかと思うと、何だかだらけちゃつて変な顔にみえたりね。だけどそういうほうがおもしろい。だから、芸でも何でも、あまりにキチッと落度なくいつ聞いても同じでもつて大変整つていてるのは、いいようでいて、逆におもしろくなつちやうんですよね。

—— 大阪と東京つていう土地柄で美人もちがいますか。

圓生 ちがいますね。ことばからして関西のほうがやさしいですね。ことばが荒っぽいことはないけど、関東のほうがちよつとやわらかさがないかもしない。だけどそれはそれでいいんです。京都のことばなんてやさしくてわからない。口説いてもね、断わられたのか断わられなかつたのかわからないようなね（笑）。およしなさい！つていわないでしょ、およしやすつていうでしょ。ひじようによわらかいから、本当にいやなのかどうなのかわからない（笑）。

MAKE UP WITH ROYAL

爽涼の秋に備えて
欧風調のタングラスを
コレクトしてみました



神戸眼鏡院

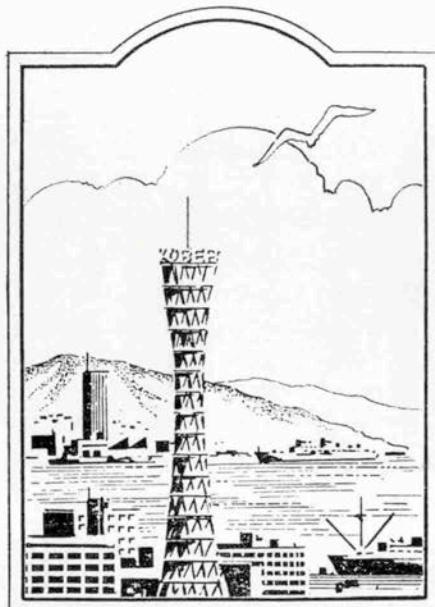
元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第2、第3水曜日がお休みです

マイ神戸、マイホテル



潮風が詩い、ファッショングが踊る。ミナト町
神戸のロマンチックな想い出は、神戸タワー
サイドホテルから——エコノミカルな料金
システムや、神戸を代表するシーサイドレス
トランで楽しめるヨーロッパの味。あなたの
旅のいち日を、心をごめてお迎えいたします。
シングル¥2,500~¥3,800 ツイン¥6,000 ダブル¥6,800



神戸タワーサイドホテル

〒650 神戸市生田区波止場町1
TEL (078)351-2151(代)

□座談会

洋菓子は神戸文化のバロメーター

「メイド・イン・コウベ」の洋菓子をつくる

吉川 進

（△神戸月堂社長）

河本 春男

（△ユーハイム社長）

光葉 貞夫

（△ゴンチャロフ製菓園社長）

松宮 隆男

（△モロゾフ営業部長）

立川 豊喜

（△トング神戸事業本部長）

★外人がつくった神戸の洋菓子

『神戸らしさ』の文化の発掘であった。文化を即生活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこそ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに彩り、楽しくしていくことは、まさに『文化開発』そのものではなかろうか。

『ファッショングループ都市・神戸』はそのような環境のなかで息づいている。

そこで、ファッショングループ都市・神戸の本質的な理解——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は洋菓子業界の方々にお集まりいただき、神戸の洋菓子の成り立ち、現状における諸問題点＝職人養成など、さらに、ファッショングループ都市づくりどう取り組むかについてお話ををお願いした。

吉川 神戸がファッショングループ都市をめざして動き始めてからもう四年ぐらいになりますが、ファッショングループというと衣類がどうも中心のようですが、ファッショングループを「生活文化」と考えれば当然衣食住が入り、その中に洋菓子も入ってきます。戦後の神戸の洋菓子の伸長率は他の産業にくらべても断然トップです。兵庫県の重要物産といわれる豊岡の柳行李や鞠、三木の金物、小野のソロバン、神戸のケミカルシューズなどに比べても神戸の洋菓子といふのは群を抜いていると私は思いますね。

河本 エリーゼ・ユーハイムから聞いた話ですと、大正八年ごろにはバターをつかつたものはバタ臭いといって日本人は食べなかつたそうですね。大正十二年にエリーゼ・ユーハイムは横浜に店を開いたんですが震災でベチヤンコになり、避難船にのつて連れてこられたのが神戸

だつた。神戸で店を開いて売り出したお菓子がずいぶん売れ、クリスマスにはあの頃のお金で百円分も売れたというから大したものでした。神戸の人たちは東京の人たちにくらべてその頃すでに洋菓子に対する嗜好があり神戸っ子にかわいがられてぐんぐん発展し、その頃の文學にも登場するようになつた。神戸には当時でも四十数カ国外人が住んでおり、洋菓子に愛着をもつていたようですし、海と山に囲まれた土地の風土が洋菓子に合つていた、ということで、なるほどと思いましたね。

光葉 ゴンチヤロフの創設者はマカラフ・エム・ゴンチヤロフという白系ロシア人です。満州のハルビンにチョコレートをはじめ洋菓子、レストラン、喫茶を経営する会社があり、そのチョコレート部門の技師長がゴンチヤロフで、大正十一年に神戸に来て日本人と協力して店をはじめたんです。神戸が港町であり、外人がたくさんいたということが洋菓子の育つ土壤となつたようですね。

立川 外人が多かつたこと、當時としては感覚的に進んだ人たちが多くおられたこと、さらに洋菓子界を創設された人たちの力が大きかつたことなどが今日の神戸の洋菓子の発展を築きあげてきたんでしょうね。

吉川 私の方は東京の扇月堂の暖簾を頂戴してやりはじめたのが明治三十年です。大正のはじめ頃には洋菓子を自分で食べてましたし、どんなものがあつたかおぼえています。ショーケースやケーキ、ビスケット、チョ

コレート、マロングラッセなど当時すでにありました。外人がはじめたところに神戸で洋菓子が生まれ、発展した一つの特徴がありますね。戦前は従業員三十人以上の洋菓子の店というのはほとんどなかつたと思いますが、それが戦後になると従業員の数は十五倍以上に伸びています。政府や行政の援助なしに民間の力でこれだけ伸びてきているわけです。神戸の菓子業界がこれだけ伸びたというのにはいい人材というか、サムライがそろつたんですね。それに神戸にいたんでは食つていけないので地方巡業をしてまわつた。結局それが神戸の洋菓子の知名度を全国的にひろめることにもなつたわけですね。

光葉 お菓子というものを全国的にみたら、神戸は洋菓子、京都は和菓子、名古屋は駄菓子というように風土とお菓子というのは切つてもきれない関係にある。神戸で高級品の洋菓子が伸びたというのは食生活やセンスの水準が高かつたということでしょうかね。

吉川 それはやはり神戸に外人がたくさん住んでいたことが原因ですね。

河本 濑戸内海をひかえて魚も大変おいしいという味覚と洋菓子とは相通づる所があるよう思いますね。いいものを作つくるということにつながつていく土壤が神戸にあつたんですね。人と風土にめぐまれて神戸の洋菓子は育つってきたんだと思います。

松宮 神戸は昔から外国人がたくさん住んでいて、外人の生活から影響を受けて洋風化傾向が早く出ていたことから洋菓子も発展して来たんですね。それと、割合に地方から来た人が多かつたので、因習などが多くて、それで自分に快適な生活をやつて行こうという明るさみたいなものがありますね。そういう新しがり屋という気風が当時の新しいお菓子だった洋菓子を推進したと思いますね。戦後、神戸の洋菓子屋は全国で実力を伸ばしてきましたけれど、品質のいいものをつくるのだという企業の基本姿勢は特に神戸には強いと思いますね。業者同士が集団をなして何かに対していくという商売はしませんね

吉川 進さん



」ということになつていて、時々「あつ、ドンクさんはお菓子もつくつておられるんですか」といわれる(笑)みんなに差がないようですね。

河本 地方へ出ても洋菓子に対する嗜好というものはそ

十五年ぐらい前には広島、福岡、金沢のような地方の県庁所在地などの中小都市へいつてもおいしい洋菓子というのはあまりなかつたようですね。この頃はありますけれども。そういうことを考えると神戸はずい分進んでましたね。

光葉 神戸には水準の高い洋菓子屋の数が他都市に比べてたくさんありますし、しかも、いいパン屋も多いのですが、強いんですね。神戸の洋菓子メーカーの一つのあり方ですね。商品中心、品質第一主義みたいなところを各メーカーが持つていて。商売の基本はそこにおかれていると思いますね。一つの特色です。

★菓子職人に国家試験を

光葉 私の所で神戸のイメージ調査をしましたところ、一般の方々は神戸というと「港」「海」「エキゾチック」といういいイメージがありますので洋菓子メーカーは神戸という名前をフルに使つた方がいいでしようね。ところで神戸のパンの消費量というのは日本一だそうですね。

立川 そうらしいですね。うちは東京では「ドンクのパ



河本 春男さん



光葉 貞夫さん

松宮 神戸には非常にいい町ですね。それでも売れるということからテストマーケットとしても非常にいい町ですね。

河本 全国的にレベルがそろつてきたのはまだほんの最近ですからね。どこに行つても遜色がなくなつてきた。これからは規模のメリットを追求すると同時に菓子屋の原点に帰るということも大事なことでこの両方を両立させていくことは仲々むずかしいでしようね。

吉川 個々の店で勉強しながら努力していくこと、みんなで共同して力を合わせてやつていくべきことと両方考えておく必要がある。全国的にレベルが上つてきて神戸に追いつつあるということ、不況ムードの中では今までと同じようにやつていたのでは頭を打つだろうということが懸念ですね。

河本 菓子屋はちょっと技術があれば素人でもすぐできるようになつてきていますね。ちょっと腕があれば店をもつて生計をたてるぐらいには困らない。そういう個人のお店が結構重宝がられていますし、そういう所では売られたすぐつくれるからできたての新しいお菓子をお客



松宮 隆男さん



立川 豊喜さん



いくことが大事ですね。ところが今は原料そのものが菓子をつくりやすいようになってるので、あまり技術を要しなくてもある程度の菓子がつくれるようになっています。これはまずいことですね。プロの菓子職人は純正の原料がもつていて本当の味を十分だせるよう修練をつんで鍛えていくことが大切なんですね。

吉川 今までがあんまり楽すぎたんですね。

河本 海外とくらべると非常な違いができるんですね。どこのお菓子も画一的でそれぞれの個性がなくなってしまっていますね。

さまで売ることができる。これからはそういう個人のお店がどんどん出てくるような気がしますね。

立川 消費者としては家でおやつに食べる分は近くのお菓子屋さんで買い、ちょっとおつかい物にするには名前通りの通った所のもの、というふうに使い分けをされているんですね。

吉川 みんなでいつしよにやつしていくものについては神戸の今までのイメージを落さないようにしなければいけないし、各自が少しでもいいものをつくるよう努力しないでください。それが少しだけでもいいのです。

河本 人間の味覚というものは修練すればある程度進むものです。神戸の職人が味覚について大変アリケートなものももっているということは大きな強みですよ。結局はいい原料を十分に生かす技術をしっかりと身につけて

河本 東京の学校では訓練をして製菓師の資格を与えるということをやっていますが、もっと徹底して国の資格を必要とすべきですよ。菓子屋は誰でも開けるというようなバカなことはないです。たとえばドイツではマイスターの資格がないと絶対に店を開けないんです。そのためには少くとも十年は菓子屋でしっかり修業をして國家試験を受け、それに通つてはじめて菓子屋を開くことができる、そのぐらいの厳しさがあつていいと私は思います。国や県・市としてもそのぐらいのことは考えてほしいものです。私のところは今年からユーハイムのマイスター制度を始めてるんです。国がやらずに民間だけに任せているので従業員がなかなか本物にならない。これではいかんですね。

松宮 職人の水準を上げるために、うちの社長がよくいふんですが、製菓学校、それもカレッジぐらいの程度でたとえば高校を卒業した人が二年か三年で専門技術を覚えるという権威のある学校で、それを卒業したら菓子屋としての資格が得られるという学校をつくり、全国のお菓子屋の二世は神戸の洋菓子学校へ来るというようにしたいですね。さらに、ここでは、技術だけではなくて、経営面からも総合的に業界のしっかりとビネスマントをつくるようにしたいですね。技術水準向上のための一つの起爆剤になるのじやないかと思います。

★「身体のためにいいからおいしい」というお菓子の哲学

吉川 洋菓子というのは何といつても外国が家元ですが、外國には追いつけんのか、それとも外国よりもいいものがつくれるのかどうか、そのへんはどうでしような。

光葉 チヨコレートに関しては技術的な面では外国に負けないと思いますが原料が問題ですね。

吉川 それは大事なことですな。

光葉 外国が優れているのは原料の乳製品がよいことと、安いことです。原料がむこうではふんだんに使われるというハンドイキヤップを除けば遜色はないですよ。

河本 技術的には劣らないですよ。味覚はむしろ日本人の方がすぐれていますから、問題は原料ですね。

立川 「いい菓子とは何か」ということです。ヨーロッパのお菓子というのは食事の中のお菓子として育つきたんですが、日本のお菓子はおやつですね。だから必然的に味も違ってくる。

河本 菓子というのは夢のある食品ですから、文化が進めば進むほど珍重がられる。菓子は文化のひとつの中のメーターといつていいと思います。ドイツでは食事の中の一部分として栄養補給として考えられてますからリッチなものが多い。

エリーゼ・ユーハイムから以前こんなことを聞いて私

は大変感銘を受けたことがあります。私は前にエリーゼ・ユーハイムといつしょに住んでいたんですけど、ある朝私を呼んでサンドイッチを作ってくれたんですけど、そのパンがとても固いんです。そのパンは初めから固いんですねくて買ってきてから三日ほど置いてあつたので固くなっているんです。それで私が、「ユーハイムさん、どうしてこんなに固くなつてから食べるんですか」とたずねると彼女は「身体のためにいいんですよ」というわけですか。「身体のためになるからおいしい」といわれた時、ウーン、と思いましたね。外人の一つの考え方、「身体のためになるからおいしい」という考え方を徹底して物

をつくつたり、食べたりするんですね。日本人の発想は身体のためになるということよりも、「おいしいから食べる」ということでまつたく逆ですね。そのへんの考え方の違いが、日本人の菓子をつくる気持と外国人人が菓子をつくる気持と出て来るんですね。彼らは「身体のためになる」ということをしっかりと頭においてつくつている。それをはつきり頭に入れておかないと添加物の問題などで食品として好ましくない問題が出てくると思いまます。

日本人のように「おいしければ身体のためになる」ということだつたらどこから何をもつてきて何をたべてもいいということになりますが、「身体のためになるからおいしい」という考え方だとそれはいかないです。

松宮 最近いわれてます食品公害の問題とか過剰包装の問題とか消費者からの要請が強くなつてきてますからそういうことにも正しい姿勢で対応して行くことが必要ですね。ただ、過剰包装一つにしても楽しい商品づくりとの接点が難しいですね。我々としては適当な機能はどこにあるのかをしっかりと考えていかないと消費者から見離されるし、一方、楽しさをつくる行くことも大切ですし、この辺を考えて適切に商品計画をして行くことが必要ですね。

★洋菓子を「メイド・イン・コウベ」の看板に

吉川 これからは日本中及び世界に対し神戸の中心産業は洋菓子だ、というぐらいの気持で考えていかないとダメだと思いますよ。地方から神戸へ来るとかならず洋菓子を買って帰つてもらうようにしたいし、洋菓子があるから神戸へ行くんだというぐらいの実績をつんで、これからもうんと伸ばしていきたいのですね。

そして今まで民間の力だけでやつてきたんですが、今後は市も一肌ぬいで神戸の洋菓子のために大いに経済的な援助をしてもらいたいですね。

河本 私は、人間の健康のためにどうあるべきかという

ことを洋菓子だけでなく食品産業全体でもう一度真剣に考える必要があると思いますね。特に、食品の原材料すべては物質なんですが、あらゆる動物が食糧とすべきものは生命体でなくてはならんということなんです。ところが今までレファインされたものが上等なんだという考え方があり、米でも麦でも砂糖でも白いものがいいものだという考えが大変強かつた。しかしこれからは生命体を使つた菓子をいかにつくるかという根本問題を考えていくことが、洋菓子のリーダーである神戸がとりくむべき大切な問題だと思いますね。市民なり国民なりの意識を変えていかなければ解決しない大変難しい問題です。

吉川 それは考えていいかないと伺いましたね。しかし、

私は戦争の体験がありますから考へるんですが戦争がはじまるとき菓子というものはぜいたく品だといって一番はじめに統制を受けたもんですよ。今は平和な時だからいいけど、また戦争がはじまつたりするようなことになると同じことがくりかえされる。しかし、健康食品としてのしっかりとしたものがあれば、どんな時代が来ても人間の健康にはいいものだということで生きのびていけます。

河本 今は加工食品が大変発達してきましたが、加工食品たるや不健康食品という傾向が非常に強い。これは食品メーカーはもちろんのこと、行政も消費者と共に考えなければならない段階にきていると私は思いますね。

吉川 それも大事なことの一つですが、食品というものは強制的に菓子を飲ますようなわけにはいかんでやはりうまい、という味の問題も大切ですね。それとこれは和菓子を手本にすべきことで、洋菓子は非常に劣っていることがひとつある。それは和菓子の文化程度というものは非常に高く、和菓子は四季の移り変わりにしたがつてからず変わるものです。それに、行事によつても変つくる。昔の人はこういうふうに消費の条件とか需要というものをつくつていつたが、洋菓子にはせいぜいバレンタインデーとかクリスマスしかない。神戸の菓子屋さんは

もつと洋菓子の需要を換起するようなことを考えていないとだめだ。神戸のメーカーは「メイド・イン・コウベ」のいい菓子をつくり出していかないといけないです。「メイド・イン・コウベ」という神戸の土地に根づいた産業として、洋菓子は決してはずかしくないものだし、六大都市の中でも神戸の洋菓子というものはかなり高く評価されています。メイド・イン・コウベの名に価する産業を育てていくということはファッショング都市づくりにおいて大事なことではないかと思いますね。「神戸の何々」ということをいたるところでこれからは出していくかないとダメだと思います。

★ファッショング空間の設定を

松宮 これからファッショング都市づくりのなかで、洋菓子メーカーが何をしなければならないかを考えますと一つは、商品の水準を今後とも上げて行くことですね。生活感覚も変化して行きますし、生活のパターンも少しずつ変わって来ていますね。ニューファミリーとか最近よくいわれていますが、感覚が変わってきますから、お菓子を食べる場所なんかも違つてくるのじやないか。たとえば、パーティが開かれたり、ミーティングがあつたりで、アウトドアの生活が多くなるとか色々あると思いますね。だから、どのときに食べてもらうお菓子かということが商品計画上、問題になつて来ますね。生活文化を総称してファッショングというならば、そういうながで楽しんで食べてもらうお菓子づくりが必要ですね。

私どもではコーヒーショップを全国で三十軒ほどやっていますが、ショッピングをしながらのひととくに、お茶を飲んでケーキを食べるということは一つの生活行動ですから、ファッショングといえるんでしようが、そのとき今までの喫茶店という概念から少し外れて、もっとお客様に喜んでいただくための店づくりということも考へているわけです。一つの空間をつくるという考え方で、どういう空間がいいんだろうかということを考えて

行かなければいけないと思いませんね。

神戸の洋菓子全体としてはお互いに競争関係はあるんですが、他の都市に対して、神戸の洋菓子はいいんだということを、品質の向上を計りながらPRして行くことを、一つの活動として考えなければいけないですね。

吉川社長が「メイド・イン・コウベ」ということをおっしゃいましたが、そういう感覚でお互いにPRして行く。神戸に行ったら、おいしいお菓子がたくさん売つてあるよという神戸の一つの特色になるぐらいに我々としては努力して行きたいですね。私のイメージとしては緑が多くて、歩きやすく、非常にいいブティックがあつたり、ショッピングにもよくて、プラザがあつてひと休みできる。そういうなかにセンスのいいお菓子屋が点在しているというファッショントリニティのなかでこそ我々の商売が機能できるということじやないかと思います。

光葉 ファッショントリニティ神戸を基盤にした洋菓子というものを考えてみると、よい土壌があつてはじめて良い本が育つですから、よい産業が育つにはよい土壤よい生活文化が必要だということはいえると思いますね。神戸らしさということはいろんな角度からいろんな人がいっていますが、それらの原点になるものはやはり私は、神戸に外人がたくさん住んでいたからだと思いますね。ですから神戸らしい土壤をもつと育てていくということは、外人をもつと優遇する政策が必要なんじやないかと思いますね。外人の方々にとつて住みやすく、得な神戸していくことが大切で、その土壤の中から豊かな神戸らしい産業が育つてくると思いますね。

立川 メーカーだけがいいものと思ってもこれが受け入れられない何にもならないので、市民総ぐるみでとりくむ必要がありますね。

吉川 そうするにはどうしたらいいかといいますと、神戸百三十万市民の収入や生活程度がもつとあがらないかのですよ。生活程度が低いと企業は神戸でめしが食つていけないので外の地方へ出していくことになる。洋菓子

というのは何といっても市民のみなさんにお買つていただかないといつてもいいので、買つていただきためには神戸市民の生活が豊かになっていくことが必要ですよ。

立川 神戸の経済基盤をいかにして築くかという大きな問題にもつながりますね。

吉川 文化レベルもあがらないかんしね。我々は文化の水準にくつづいていく商売ですからね。(笑)

松宮 ファッショントリニティ神戸というものが完成したら企業にとってメリットがあるのだ、将来ファッショントリニティが出来上つたらそれが約束されているのだという幻影を抱きながら色んなことが進んでいるようですね。神戸の町は楽しい町で、居心地がよくて、住んでいる人は神戸の町に誇りをもつていて、他の地方からたくさん人が集つて来て下さるような神戸をつくろうというのがファッショントリニティ神戸のテーマじゃないかと思いますね。楽しい町、居心地のいい町をつくり出すにはどうしたらいいんだろうかを考え、道も歩きやすくして、人間中心の再開発をやって行く必要があるんじゃないですか。ファッショントリニティ神戸が出来たから個々の企業の将来が約束される、というのではないんじやないかという気がしますね。企業の存続は提供する商品とサービスによつてお客様が約束して下さるんですから、ファッショントリニティイコール企業の繁栄につながり、自分のところのメリットのみを考えるというのではダメですね。居心地のいい町をつくるうという発想をもつて業者としてできることはやつて行くことが必要だと思います。店先を綺麗な花で飾るとか、ゴミが落ちてないとか、クリスマスの歩くところが区分されていて非常に歩きやすいとか、緑が多いとか、よその町とは違うところを推し進め、神戸へ来て下さったお客さまにおいしいお菓子を買つていただき、また、お菓子を食べながら静かにお茶を飲んでいたくというような空間を設定して行くことがアッショントリニティ神戸へ参画する我々の角度でしようね。

ウシオ工業株

取締役社長 牛 尾 吉 朗
神戸市葺合区浜辺通 5 丁目 2 の 1
神戸商工貿易センタービル 18 F
TEL (078) 251-1651 (代)

田崎真珠株

取締役社長 田 崎 傑 作
神戸市葺合区旗塚通 6 の 3 の 10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株

取締役社長 川 上 勉
神戸市生田区伊藤町 121
TEL (078) 321-2111

株ワールド

会長 木 口 衛
神戸市葺合区八幡通 3 丁目 1 の 12
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー株

取締役社長 稲 岡 必 三
神戸市生田区三宮町 1 丁目 43 番地
TEL (078) 392-2101

株ベニヤ

取締役社長 松 谷 富士男
神戸市生田区三宮町 1 丁目 54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株

取締役社長 萩 野 友太郎
神戸市東灘区御影本町 6 丁目 11 番 19 号
TEL (078) 851-1594

入 船株

取締役社長 小 泉 進 吉
神戸市灘区新在家北町 1 丁目 1-19
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル 3 F
TEL (078) 851-3191

神戸地下街株

さんちかタウン・サンこうべ
神戸市生田区三宮町 1 丁目 1
交通センタービル 8 F
TEL (078) 391-4024 (代)

キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の企画は以上 9 社の提供によるものです。

